



JCLIFE

2019年
11月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>



寺フェス の浄土寺



10月5日(土)、浄土寺にて、大本誠委員長率いる地域の魅力創造委員会主催「寺フェスin浄土寺」くみんなどで作る「おのみちの未来」を開催しました。

国宝、重要文化財に指定されている尾道の魅力、浄土寺を舞台とし、地域の宝である子どもたちによるパフォーマンス、写経・写仏、お守り作り、お茶体験、副住職による紙芝居、飲食ブースなど、尾道の魅力満載の内容となっており、非常に多くのお客様にご来場いただきました。

お寺を舞台とするような、多くの方をお招きするイベントはなかなか行われませんが、尾道青年会議所だからこそ出来る、地域に根差したイベントになったのではないかと思います。

参加いただいたパフォーマンスの皆さまや、ご来場者の皆さまからは、「来年もやってください!、すごく楽しかった!」など、とても励みになるご意見をたくさん頂戴しました。

これからも、地域の魅力を活かした活動を行ってまいりますので、一緒に尾道を盛り上げてまいります!

(記事: 島田 元太)



10月例会



10月16日(水)、尾道国際ホテルにて10月例会を開催しました。

あるべき姿探究委員会(原田知晴委員長)が、テーマ「データ活用から考える、

これからのビジネス」と題し、株式会社ワフル・糸川将司氏にご講演をいただきました。

世界で起こっているIOTを取り巻く環境変化や、現在第四次産業革命化にある



現状、IOTを活用した様々な企業の事例を取り上げながら、非常に分かりやすくご講演いただきました。

「IOT、データ、AI:」と聞くと、一見難しく、大企業が取



り組んでいるもの、と思いがちですが、決してそうではなく、中小企業や、個人商店など、データ活用による発展の可能性が、とても多く存在していることを、知ることが出来ました。

会員それぞれが、自社においてどのようなデータが存在し、そのデータをどう活用することで、更なる成長の可能性があるのかを考える第一歩となる例会となりました。

(記事：村橋聡)



尾道港開港850年 記念事業

コメフェスタ



尾道は今年、港ができて850年となりました。

尾道になぜ港が出来たか、それは、備後国大田荘(現在の世羅町)という荘園(田畑)の倉庫として尾道が選ばれ、決まりました。

広い世羅の台地にある大田荘で作られたお米を京の都へ送るための、少しの間置いておく倉庫を、尾道の海岸へ作り、それから尾道は瀬戸内を代表する港として発展しました。

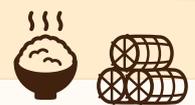
このように、世羅のお米には尾道の発展と深い結びつきがございます。

今回、尾道青年会議所が、この尾道の歴史を少しでも多くの尾道市民の方々に知って頂く場をご提供させて頂くことを目的に、「コメフェスタ」を開催させて頂く運びとなりました。

豪華景品付き餅まきや、美味しい飲食ブースなど、ご家族みんなでお楽しみいただける内容となっております。

詳細は、以下の通りとなっておりますので、ぜひ皆さま、お誘いあわせの上、足を運ばれてみてください。

(記事：活気溢れる組織作り推進委員会 委員長 池田 知和)



- 開催日時：2019年11月23日(土) 10:00~14:30
- 場所：尾道駅前緑地帯広場
- 内容：豪華景品付き餅まき(象印高級炊飯器、ダイソンクリーナー、ニンテンドースイッチ)、世羅の新米炊立て無料配布(先着850合) お米チャレンジ(お米をすくって850gが当たればプレゼント)、昔懐かしいポン菓子機実演(出来立てポン菓子配布) その他、飲食ブース多数出展

ベッチャー祭り

11月3日(日)、ベッチャー祭りが開催され、我々尾道青年会議所からも、多くのメンバーが参加しました。

ベッチャー祭りは尾道市民俗文化財に指定されているお祭りで、尾道市民の皆様が親しまれています。

ベタ、シヨーキ、ソバとともに練り歩くお神輿に、多くの方が歓声を上げて楽しんでいました。



お神輿だけでなく、尾道の風物詩ともいえるベッチャー太鼓の迫力満点の演技も、最高に盛り上がりました。

尾道のお祭りはどれも、華があり、熱量がすごく、観るものを楽しめます。

まちの大切な文化に関わることで、尾道を支えてくださる方の愛情や情熱を、一緒に感じることが出来た素晴らしい機会となりました。
ぜひ、皆さんも一緒にお神輿を担ぎましょう！

(記事・内海洋平)



和作忌

11月4日(月)、尾道市名誉市民の洋画家小林和作氏をしのぶ「和作忌」西国寺で営われました。

2019年度の小林和作賞に選ばれた同市出身の漫画家かわぐちかいじさん(71)が、和作が描いたふすま絵がある持仏堂で講演されました。

墓前では、麻生先輩の読経の中、尾道JCMメンバーも手を合わせてお焼香をいたしました。



とても貴重な場に参加させていただき、尾道の歴史と文化に触れる素晴らしい機会となりました。

(記事・吉田嵩正)



10月26日(土)、愛媛県

上島町、生名島におきまして、今治J-Cさん、因島J-Cさんとのしまなみ3J-C交流事業「しまなみ絆カップ2019」が開催されました。

生名島という粋な場所で、サッカーを通じて交流を深めることが出来ました。

日頃の運動不足は横に置き、全力でボールを追いかけて、みんなで笑顔になる。そして、終わってから懇親会で大いに盛り上がり、大盛況の後に終わりました。

LOMの垣根を超えた交流は、とても大切な機会となります。

今後も様々な機会を通じて、親交を深め、お互い切磋琢磨しながらそれぞれの地域を盛り上げていきたいと思えます。

(記事・小迫佳紀)



卒業生スピーチ



池田 憲泰

みなさんこんにちは。池田憲泰です。さっそくですが、まずは、入会から順を追って話をしたいと思います。

私は尾道生まれ尾道育ちで大学から関東に出て就職し、稼業もあるので30歳を目途に尾道に帰ろうかと思っていました。29歳で結婚、子宝にも恵まれ、妻の希望もあり息子が1歳になる2010年の4月に尾道に帰ってきました。父である当時の社長と企業回りをする中で、「J.C.に入らないうけま〜」といったお誘いや父たちの世代のOBの方々も楽しく昔話をするもので何となくJ.C.に入るんだらうな〜と思っていました。そんな中、仕事にもまだ慣れない6月に中高で同級生だった麻生さんと本多先輩が急にアポなしで会社をやってきました。後々大変お世話になる本多さんなんです。池田君、日大出身なんだね。僕も日大出身なんだよ〜。なんて急に親しげに言われて当時は右も左もわからなかったのです。「誰?」と思ったことを今でも覚えてます。この年は尾道に帰ったばかりで、父からも妻からも「入会はまだ早い!」と反対を食らったので仮入会しませんでした。翌年は、麻生さんが鍛冶川先輩を連れて会社をやってきました。2011年は啓文社の手塚先輩が理事長の年だったのですが、家族からは「まだ早い」と言われたのですが、鍛冶川さんに言われたら入らざるを得ないと思ひ、観念して自分の

意志で入会しました。2011年は東日本大震災があった年で、当時、ドイツ2リーグを尾道に初めて呼ぶとか呼ばないとかでとても関心が高まっていた、復興に関する話などもあり、入会したいと思うようになりました。

そして、仮入会から村上伸一さんが実行委員長、佐藤さんと黒飛さんが副実行委員長を務めるブロックアカデミー実行特別委員会に仮入会全員が配属になったのですが、佐藤さんと黒飛さんがほぼ毎日のように出欠連絡をしてくるんですね。ポーリングに行こうとかゴルフをしないかと、全国大会名古屋に行こうとか。真面目で独身の今岡君だけ名古屋の全国大会に行ったのですが、内気な同期仮入会員たちは全国大会にはいきませんでした。翌年からは毎年京都会議や全国大会に行くようになるのですが、佐藤さんや黒飛さんってすごくマメな人なんだなと当時思っていたのですが、今思えば、役職上、入会してもらいたいがために事務連絡をしたたのです。お陰様で同期入会の今岡君、山北君、なっかん、あっちゃん、みつたん、研くん、す〜さんとも自然と仲良くなっていきました。

続いて入会1年目は今川さんが委員長の総務広報委員会に配属されました。この年は手塚さんがブロック会長として出向されていて、委員会メンバーも麻生さん、輝さんなどブロック役員が委員会メンバーの多くをしめていたので、山北君が広報誌担当、私がホームページの更新担当といった形で二人幹事で、ほぼすべての事業に出席して広報活動をしていました。病気で亡くなられてしまった永井さんが、委員会中によく手料理を持ってきてくれ

て、ゆかた会担当だったので永井屋を開いたのが思い出に残っています。竹村家でお茶の例会を開いたのも思い出深いです。

翌年は武也さんが理事長、安部さん専務、佐藤さん事務局長で山北君とセクレタリーを受けました。とにかく出られるものはほぼ全ての事業に出ました。この年にいろいろとJ.C.について教わったのですが、最後に理事長が事務局に恩返しをしたいということで、事務局メンバーと林さんに連れて神辺付近にある高級焼肉店に理事長のハイエースで理事長自ら運転して食事に行ったのですが、当時、安部専務の食の暴力というのがあつて食べ過ぎて高級焼肉をリパスしてしまいました。山北君のビツクリ顔を見ることができました。普段クールな山北君のビツクリ顔ってすごく記憶に残るんですね。セクレタリーって大変なんです。受けることが可能な状況であればとても勉強になるので、ぜひ受けていただきたいと思ひます。

仮入会、総務幹事、セクレタリーを経て2014年安部理事長の下、初理事当選して拡大委員長になりました。この年は腸が腐りかけてあえなく途中断念した委員長もいましたが、副理事長も委員長も非常に個性的な委員長が多かったように思ひます。なかなか副理事長が厳しい人ばかりで、当初は委員長会を開いては福田さんや三谷君や政君と文句ばかり言っていたように思ひます。

前年度拡大委員長だった美ノ上さんから、「池田君、拡大委員長は禿げるから気をつけよ〜」って言われて、冗談だと思ひていたらストレスでホントに十円禿げができました。洋樹くん、来年禿げないよう

に気を付けてください!入会以来、幹事、セクレタリーを受けて委員会運営に自信があったのですが、最初は全く委員会運営についてわかつてなかったのです。京都会議で楽しく美味しい酒を飲むように

たら、今中副理事長と安楽城副委員長にこつ酷く叱られて、当人たちは叱ったつもりではないのかもしれないが、美味しい牛肉を食べてもまったく味がしないようなそんな京都を過ごしました。紆余曲折ありましたが、5月ごろに委員会メンバーの宮坂さんが奮闘モードになって委員会を盛り上げていただき、8人の新入会員に恵まれました。拡大して委員長が率先して采配を振るう必要があるのですが、拡大候補者に合ったメンバーが拡大訪問することによって入会率がぐんと高くなります。副委員長の安楽城さんにはずっとそのように言われ続けていたのですが、頭がカチカチに固かったため、なかなか本当の意味で理解できていなかったのです。あの頃のことを思うと本当に今中さんと安楽城さんには悪いことしたと思ひます。安楽城さんって照れ屋でAB型でちよつとわかりにくいところもあるのですが、本当はJ.C.がとても好きな人なんだらうなと思ひます。更なる活躍を祈念してあります。8人の素晴らしい新入会員に恵まれたことと素晴らしい委員会メンバーに恵まれたことが嬉しかったのですが、最も嬉しかったのは、J.C.に対して斜に構えていた宮坂さんが、理事選に受かって翌年度委員長になったことでした。福田さんの後押しも大きかったのですが委員長の前を走って俺も委員長やろ〜と思うと言ってもらえたことが何よりうれしかったです。

ラグビーワールドカップが大盛況で終わりを迎えました。巷ではワールドカップロス?も出ていないとか。日本代表が目指していた「ONE TEAM」とも素敵な言葉ですね。とあるバスケ漫画に、「TEAMにという文字はない」というセリフを思い出しました。「個を捨て、チームに尽くせ」。非常に納得のいく名言だと思います。一方で、「WINには!がある」と言った名選手がいます。この正確な意味は、「勝利の中に個の力は存在する」であり、個という存在も勝利において不可欠、という意味ではないかと思ひます。

尾道青年会議所活動もONE TEAMで行うことが大切ですが、その中で、きらりと光る「I」(個)を見せられる存在になりたい、そう感じる今日この頃です。

(記事:岡田 貴臣)



卒業生スピーチ

そして、2015年は本多理事長、池田誠事務、徳永渉外局長、今岡君、中司君、大西君とともに事務局長の職に就きました。この年はブロック大会を尾道で開催ということで大変な年でしたが、本多さん、誠さんを中心にとっても楽しい事務局でした。ただ、この年の3月に私の母が持病で急死してしまふということがあり、家族一同、当面立ち直れないほどのショックを受けました。ピンピンコロリとか娘の誕生日をみんなで祝ったその晩に亡くなったものだから世の中が全て灰色になったような感じでした。そんな中でも、お節介なJCMメンバーは声をかけて無理やりにも立たせてくれようとするんです。葬儀で泣いて肩を落とす背中を武也さんは力強くたいてくれました。西本さんや浩太さんとか声をかけてもらって、「泣きたいときは泣きやい」、「男にとつていつまでたつても母親は特別なんだ」といったようなことで鼓舞してもらえました。本当につらい時、ダメになつてしまったときに支えてくれるのはJCMで培われた仲間なんです。この時支えてくれたみんなの事は一生感謝すると思います。

2016年は、成司さんが委員長、耕平くんが副委員長の総務委員会に配属しました。この年は、因島でブロック大会を開くということで、尾道から担当のブロック委員長を出すことを要請されており、ブロック大会担当のブロック委員長として役員出稿しました。このブロック大会の担当委員長は、上程内容もスケジュールも非常に大変で、12L.O.M回したら次はブロック大会のPRでまた12L.O.Mをまわるんですね。お陰様で、広島県内12L.O.Mに友人がたくさんできました。今年は高山君がブロック委員長として出向、来年もブロック委員長が出る

ようですが、機会があれば出向役員も経験してもらいたいと思います。尾道とはまた違った世界が見えてきますし、県内にたくさん親しい仲間ができます。

2017年は太田理事長の元、日暮委員長率いる拡大委員会と政成委員長率いる総務委員会の副理事長を仰せつかりました。日暮くんはとにかく忙しい人でだいたい携帯にかけると海外から神戸にいました。政成委員長とは毎日30分ぐらいは電話してましたね。もう、嫁よりも携帯の着信履歴がついてるし、家族以上と話していたと思います。この年はよく酒を飲んだ年で、政成委員会ではとにかく焼酎を二気飲み。日暮委員会でシャンパンやワインなど高級な酒をよく飲んでました。副理事長にもかかわらずトイレが友達で、とにかく飲んだ年でした。

2018年は福山の吉川ブロック会長の元、広島ブロックの副会長に出向させてもらいました。夏に豪雨災害と断水があったのであまり事業ができず、泥かきのボランティアをした思い出があります。尾道では吉原実行委員長、歌副実行委員長、岡本副実行委員長の元、ブロックゴルフ大会を開催しました。卒業予定者に慎也さんがいたのですが、卒業旅行で高知沖に釣りに行つて90cm大のブリを釣れたのがとても嬉しかったです。断水と泥かき以外には釣りに目覚めた年でした。卒業旅行もいろいろと歌くんや慎也さんの予測不能なハプニングがあり楽しかったですね。

そして、今年は監事を仰せつかり、原田委員長の元、あるべき姿を探求しています。今年のお礼はまた卒業例会の後にさせていただきます。私から皆さんに3つほど伝えたいことがあります。一つは、事業をするのであれば、将来に夢を持てるような事業を行つてほしいということです。市民の事、子供たちの事、JCM会員の事、

会員の家族の事、それぞれ事業の対象者を思い浮かべながら、どのような事業を構築していけば将来の夢につながるのか、お互いに感謝の気持ちを持ち、ともに喜びを感じられる。そのような事業はきっと成功につながると思います。すし、JCMで得られた信頼関係や価値観は今後の家庭や仕事にも貢献できると考えています。真摯な気持ちでJCM、仕事、家庭とバランス良くやっていたら、頑張っている姿勢が認められれば、家族も社員もJCMに対して理解してもらえらると思います。立場によっては難しい方もいるかもしれませんが、対外事業の場合は積極的に社員や家族に事業に参加してもらつてほしいと思います。

2つ目に伝えたいこととして、よくOBの先輩方から聞く話で「失敗しても許されるのがJCM」という言葉がありまして、現役時代、特に委員長時代はこの言葉が嫌いでした。成功すべく頑張っているのに何でこんなことを言うのだらうと思つていましたが、我武者羅にJCMやろうと委員長が一人で頑張つてもJCMは成り立たないんです。事業をやつていけばしくじることだってあるし、委員長として委員会を盛り上げきれなかった暗黒時代を過ごしたという方もいらつしやると思います。そこでJCMは終わりということではなく、どんな人にも等しく復活のチャンスは与えられるべきであるのがJCMなのです。何十人もいる組織でみんな個性的なので、合う人合わない人というのはどうしてもあるとは思いますが、話してみたらいい人じゃないかというのはいくらでもあります。JCMはよくできたシステムで毎年委員会構成が変わるので、ほぼ等しくいろんな人と仲良くなる機会があります。私も様々な方と交流を持ち、思い出話を話せばきりがないのですが、この人合わないなと思う人にも関心をもって接点をつくれれば自然と友好関係は広がって自己成長にもつながるの

で、ぜひ愛をもって会員どうし、特に委員長は委員会メンバー一人一人に愛をもって接してほしいと思います。そのような委員長が皆に愛されるようになるのだと思います。

最後に伝えたいことは、現役のみなさんには、卒業までには悔いのないJCM生活だったと言えらるようになってほしいと思います。自分が悔いのないJCMライフだったかという実は1点思うところがあつたのですが、先日、とある飲み会で普段、厳しい意見をおつしやる先輩にその点について聞かれました。率直な話をしたところ「池田君はようJCM頑張つたと思う。わしはちゃんと言葉をいただきました。確かにJCM歴をみたら毎年休むことなく何かしら役をやつてきたのですが、全てこの言葉で報われたかなと思ひました。

頼まれごととは試されごとと福田先輩がよくおつしやつていましたが、ひたむきにJCMをやっていると頑張りをみてくれる人が必ずいるんです。事務局や出向役員など声をかけてくれる先輩がいたときにいつも1週間程度は悩みましたが、受けられる役職は全部受けてきました。その時の巡り合わせというのはあるのですが、私は想いを伝えるのが苦手な場を盛り上げるが下手な方なのだと思います。それでも、ひたむきに頑張つていたら、その姿を応援してくれる人を見てくれる人は必ずいます。頑張つてる人がいたらどうか、立場のある方は「よう頑張つてるのう。俺は見とるけ」といった感じでほめてほしいと思います。役職のお誘いを受けるときに「仕事があるから」「家庭があるから」と断る方がいますが、それはいいわけだと思ひます。自分や家族が死にそうだとか会社がつぶれそうだとか、そんなときはJCMやつとる場合かと叱りますが、そうでないなら、なんとかやり繰りすれば受けられない役職は無いと思

います。私は今までJICをやつてきて、今なら悔いのないJIC生活だったと胸を張つて言えます。未来のある皆様には、是非とも卒業時には「JICやり切ったな」と言えるようにJIC生活を送つてほしいと思います。皆様が輝かしいJICライフを送られることを祈念しまして、そして、今まで携わつた全ての人に感謝の気持ちを込めて、卒業生スピーチとさせていただきます。ありがとうございます。



太田 雄介

皆さんこんにちは。
太田雄介と申します。

こんな感じです、みなさんの顔を合同委員会で見られるのは久しぶりかなと思いますし、毎回、こういう感じで、合同委員会を迎えられたらいいのではないかと思います。

私ももう歴だけ見ると、この人JIC好きなんだなと思われ方もいらっしゃるかも分かりませんが、入会当初というものは、JIC大嫌いだったんですね。

大学卒業して、実家が商売していたものから、父親が病気をしまして、卒業してすぐ実家の家業の方に入ったのですが、そこですぐ誘われて、何もわからない24歳の時、入会させていただきました。

その当初は、まだ遊びたいし、仕事もまだ覚えることがいっぱいありましたし、JICって何だろうっていう部分をすごく感じていたことがあります。

「入会してみればいいよ」って言うてくれた方にもすごく感謝しているのですが、入会当初、相当怒られました。いわゆる雑用をずっとしていたのですが、意見を言おうとしてもなかなか自分の思ったことも言えないような環境でした。JICの先輩方が怖かったといえれば怖かったですし、厳しかったといえれば厳しかった、そんな時代でした。

でも24歳でそうやって怒られるのは、結構苦痛でした。

一緒に入つてきた人たちとは、いつ辞めようかと話していた記憶があります。

ただ、怒られるとだんだんムキになるといつか、いっちゃやつてやろうかという気にもさせられたのかもしれない。

私は24歳と若く、同期も30歳くらいで入つてくる方が多かったので、役を受けられていきました。

私はそのまま委員で、6、7年やってきました。

その同期の方々を見ると、すごく頑張っているなど。その当初、一緒に辞めようやと言つていたかたが、しっかりやっているわけです。その姿を見ていると、自分もやってみようかなと、自分でも気づかないうちになっていました。

しかし、二回だけすごく悔しいことがあった。

当然、周りの目も、太田は次の委員長だろう、理事だろうという目で見られてくるわけです。

決して私はさぼつたわけでもないですし、委員会にも事業にも合同委員会にも出ていました。

そうすると、周りの目もそろそろ太田を理事にさせてあげなきゃいけない、お前なら出来る、という目になってくるのです。

またその当時は、100人近くいましたから、自分もその気になっていくわけです。

当然尾道は選挙なので、選挙のあと、ふたを開けてみれば落ちています。その時に、まあしょうがないか、と思つていましたが、内心ではすごく悔しかったです。

ただ、その時の理事長に、呼び出しを受けて、すごく怒られました。

お前のせいで私が考えている構想が全部変わった、と。

その言葉を聞いて、自分の中でのスイッチが入りました。何が足りなかったのか、何がいけなかったのか、今まで情性でやつてきたJIC活動で

したけど、少し考えていくようになりまし。それをきっかけに、セクレタリーを受けたのですが、そういう中に自分の中のスイッチが入るといふものが、たぶん皆さんの中にもどのタイミングかは分かりませんが、きっと訪れると思います。

その時に、何を感じて、どのように行動していくのかは、皆さん次第なので、私が偉そうに言うことではないですが、そういうタイミングが皆さんの中にもあると思います。

そのタイミングを逃さずに活動してもらいたいと思います。

私は、その時の理事長に怒られたことで、スイッチが入つたのだと思います。

それから、いろいろな役を受けていったわけですが、役をやればやるだけ、責任感や期待の目を感じるわけです。

では、その期待に応えるにはどうしたらよいか、どのように振舞えばよいか考えるわけです。そうしているうちに、気が付けば、理事長までやらせていただいて、もう悔いはないなというところまでさせていただきました。

やつているときは、自分では全く気付いていないんです。

ここにいる皆さまも当初の目的として、どうしても、まちづくりがしたくて入つてきたわけではないと思います。中にはいらつしやるかもしれない。

ただ、知らず知らずのうちに、まちのことや子どもたちのこと、この尾道をよくしていくにはどうしたらよいか、話していると思います。その中で、そういう意識になっていると思います。

これはすごく大事なことです。本当はやめたかと思つてた自分が、ちょっとはそういうことを考えるようになっていたのです。これは、JICすごいなと思いました。

自分も、そんなことを考えるような人ではないと思つていました。24歳のころは、遊びたいと

いう気持ちがありました。友達とは遊んでいるのに、なぜ私はJICに行かなければならないとすごく思つていました。だけど皆さんはここにこつて集まって活動していく、この場だけでもそういう話をする。いつの間にかそういう思考になっているのです。

あとは自分のタイミングです。いつどこでそのタイミングがあるかは分かりませんが、そういうタイミングを大事にしていきたいなとすごく思います。

私は二つ決めていることがあります。

あんまりおちゃらけたことは言わないようにしているのですが、自分の中で、その当時の先輩というのはいくらもかっこよかつたんですね。

JICって違うなつて思える方がたくさんいらつしやいました。すこしでも、自分がそういう姿に近づけたらいいなと思つていました。

私と関わつてくれている皆さんの中には、騒いでいる姿を見ている方もいらつしやいますし、下手打つた姿を見ている方もいらつしやいます。

ただ、こういう会で話す時というのは、それなりに皆さんの期待に沿うような人間じゃないといけない、と自分の中で決めてきました。

ですので、皆さんも、自分をどうしたいのか、自分が理事やりたいのかやりにくいのか、JICやりたいのかやりにくいのか、決めていただいて、どんなJICマンになっていきたいのか、これから探していただきたいと思つています。

後悔は全くありません。むしろ感謝しかありません。

あまり深く考えず、なんとなくでもいいです、やつていただくことに意味があると思つていますし、楽しいこともつらいこともありすが、そういうことを乗り越えていただき、かっこいいJICマンになっていただきたいと願つて、卒業生スピーチに代えさせていただきます。

本当に、17年間、ありがとうございます。